

自然乾燥に近い乾燥ができる「超低温乾燥設備」の導入による伝統工法建築の受注拡大



自然乾燥に近い状態で木材を乾燥できる「超低温乾燥設備」を導入し、本格木造建築の魅力をさらに高めるとともに、工期の短縮とコスト低減を図り、日本の古き良き伝統工法を後世に継承する。この取り組みを通じて、多可町産松のブランディングを図る。

事業の背景



多可町産松を使いながら、適正価格・納期を実現する

当社がある多可町では、木造住宅に使われる松の生産が盛んである。しかし、外国材を使うことが多い大手住宅メーカーの台頭で、国産松の需要は低迷している。そこで、多可町産松をブランド化し、多可町産松の需要を喚起したいとの思いがあり、木造伝統工法にこだわる当社としても、受注する工事に地元産松を使いたいと以前から

想ってきた。木造伝統工法に地元産松を使う場合、木材を乾燥させる必要がある。「自然乾燥」が理想とされるが、自然乾燥は長期間を要し、価格も高くなる。そこで、「自然乾燥」に近い状態であり、かつリーズナブルな価格の木材の安定調達が必要と考え、本事業の実施に至った。

事業の内容



超低温乾燥設備を導入し、自然乾燥に近い木材を調達

当社は、金物をほとんど使用せず、木材を互いに組み合わせることにより骨組みを構成する木造伝統工法にこだわっている。伝統工法では、「自然乾燥」の木材を使うことが家を長持ちさせ、色あいても自然で、付加価値が高くなる。しかし、自然乾燥には2年～3年を要することから、そもそも必要量の入手が困難で、価格も高くなる。また、顧客が要望する建築時期に合わせることができず、数年待っていたこともあった。そのため、顧客の関心は高く引き合いは多くあるものの、受注に至らないケースが多い。そこで、顧客のニーズに応えながら、伝統工法を拡大していくには、「自然乾燥」に近い状態で、かつリーズナブルな価格

の木材の安定的な調達方法の確立が喫緊の課題と考え、本補助金を活用して超低温乾燥設備(乾燥庫)を導入した。自社には乾燥や設備管理に関するノウハウがないので、地元木材店や林業関係者に協力を仰ぎ、乾燥や設備管理に関するノウハウを習得した。試行錯誤を繰り返し、「自然乾燥」に近い状態を再現する最適な温度設定を見つけた。

太田工務店株式会社

所在地	兵庫県多可郡多可町中区門前337-1	E-mail	1173golf@gmail.com
TEL	0795-32-3539	HP	http://ootakoumuten.net
設立	平成27年1月5日	事業内容	大工・設計施工管理、古民家改修、多可町産松製材・販売
代表者	代表取締役 太田 亨	主要生産設備	製材機、乾燥設備
従業員数	7人(令和元年6月現在)		
資本金	500万円		

事業取り組みの成果



多可町産松の外販

超低温乾燥設備とあわせて、製材機も導入した。そのため、自社で多可町産松を直接仕入れ、乾燥、製材したのち自社で活用する体制が整った。多可町産松をもっと使って欲しいとの思いから、自社が有する乾燥・製材の機能を生かし、「多可松屋」の名称で構造材・化粧材などを建築事業者等に販売する事業を始めた。



【導入した超低温乾燥設備の内部】

超低温乾燥設備による副次効果も

工務店自身が乾燥設備を保有することはめずらしい。その独自性が話題になり、学生の会社見学や、林業関係者のイベントでの見学者が来訪することもある。また、マスコミ等に取り上げられることもある。乾燥設備導入を始め、伝統工法や多可町産松へのこだわり、地元多可町産材を利活用するためのイベントの実施など、様々な多可町産松ブランディングの活動が、営業面でも効果を生んでいると推測される。また、当社の取り組みに興味を持った学生が当社に就職するなど、採用面でも好影響を与えている。



【多可町産松の原木】

【乾燥方法の比較表】			
	自然乾燥	従来乾燥 (高温乾燥)	超低温乾燥
乾燥方法	特に設備は必要ない 風通しを良くする隙間を生む「棧(さん)」を積み込んで。棧積みして野外に置き、自然な状態の中で乾燥するのを待つ	装置内の温度を100℃以上まで上昇させ、木材の細胞を破裂させて水分を抜く	木材の細胞が壊れない45℃以下に装置内の温度を設定し、水分を抜く
乾燥期間	2～3年	2週間	4週間
乾燥状態	個体差により水分含有量に違いが生じる	同条件での乾燥のため、乾燥状態は均一に仕上がる	同条件での乾燥のため、乾燥状態は均一に仕上がる

【乾燥方法の比較】

多可町産松を知ってもらう取り組み

多可町産松をもっと知って欲しい、多可町産松に慣れ親しんでもらいたい、との思いから松の小物(アクセサリなど)の製作・販売をしている。また、多可町産松を使った製品の色づけなど、子供向けのワークショップを開催している。



【多可町産松のアクセサリ】

今後の展開

- 「多可松屋」の拡販
- 多可町産松と他の多可町の特産品とのコラボレーション商品の開発
- 多可町産松の海外販売



代表取締役 太田 亨氏

多可町産松のブランディングを通して木材需要を掘り起こし、地域を盛り上げる山を中心に産業と自然の好循環サイクルを回す仕組みが多可町で確立すれば、日本中の山間部でもこのモデルを応用できるようになります。そうすれば日本中の山が元気になる、川が栄養豊富になり、海を育てることもつながります。良質の多可町産松を有効活用することは、多可町はもとより日本全国、さらには世界の自然を豊かにしていく第一歩になると信じています。今後も多可町産松を活用する取り組みに力を注いでまいります。